

補装具評価検討委員会WG  
意思伝達装置価格調査資料

# 支給基準に関する基礎調査

## 重度障害者用意思伝達装置について

研究分担者 横井 剛（横浜市総合リハビリテーションセンター）

# 重度障害者用意思伝達装置 本体・修理項目に関する価格変動調査

調査対象：日本障害者コミュニケーション支援協会に所属する  
重度障害者用意思伝達装置メーカー、補装具事業者  
(配布数12、回答数10)

調査期間：2023年6月－7月

調査内容：期間1（令和5年6月）にいたる期間2（令和2年）  
からの卸価格、メーカー希望小売価格

近年の物価上昇による価格変化について調査を実施

# 結果① 機種について

種目	名称	基本構造	価格
重度障害者用意思伝達装置	文字等走査入力方式	意思伝達機能を有するソフトウェアが組み込まれた専用機器であること。文字盤又はシンボル等の選択による意思の表示等の機能を有する簡易なもの	143,000
		簡易な環境制御機能が付加されたもの	191,000
		高度な環境制御機能が付加されたもの	450,000
		通信機能が付加されたもの	
	生体現象方式	生体信号の検出装置及び解析装置	450,000

## 回答のあった機種について



専用機器



パソコンにソフトウェアを組み込んだ専用機器



専用機器

●文字等走査入力方式において現状では基本構造が「高度な環境制御が付加されたもの」「通信機能が付加されたもの」のものがほとんどであり、基本構造の見直しも必要と考える。

## 結果② 本体価格について

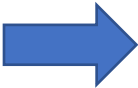
	回答数	機種数	基準価格 (円)	卸価格(円)		変化率(%)
				2020年	2023年	
文字等走査入力方式	2 (補装具 事業者)	6	450,000	266,667	282,500	5.9
生体現象方式	3 (補装具 事業者)	3	450,000	295,333	306,667	3.8

本体の卸価格は4-6%程度の上昇を認めた  
ただしメーカー希望小売価格は基準価格を超えるものはなかった。

# 結果③ 修理項目について

## 全体結果

	2020年から2023年における卸価格の変化率				
	0-5%	5-10%	10-15%	15-20%	20%以上
項目数	8	2	0	0	6

 修理項目の卸価格変化については大きく2極化されており、変化が大きい群では20%以上の大幅な上昇となっている

# 結果③ 修理項目について

変化率が20%を超えるもの

	回答数	製品数	基準価格 (円)	卸価格(円)		変化率 (%)
				2020年	2023年	
①固定台（アーム式又はテーブル置き式）交換	8	5	30,000	17,639	24,589	39.4
②固定台（自立スタンド式）交換	12	8	50,820	31,463	40,911	30.2
③入力装置固定具交換	6	4	30,000	13,672	20,346	48.8
④呼び鈴交換	7	4	20,000	13,109	15,946	21.6
⑤視線検出式入力装置（スイッチ）交換	4	1	180,000	132,441	168,385	27.1
⑥遠隔制御装置交換	3	1	21,000	18,600	32,340	73.9

上記の各項目において価格上昇によりメーカー希望小売価格が基準価格を上回る製品が認められた。  
(例) 視線検出式入力装置180,000円→220,000円、遠隔制御装置21,000円→36,000円など

 修理項目の一部に関して基準価格の見直しが必要と考えられる